

平成22年度全国高等学校総合体育大会【美ら島沖縄総体2010】
(第78回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成22年8月18日(第2日)

会場: プール

ゲームNo

11

帽子の色	白	2回戦	青	帽子の色
秀明英光高等学校		3 - 2	山形県立山形工業高等学校	
12		5 - 3	14	
		2 - 5		
		2 - 4		
		EX.		
		-		
天候: 晴れ		P.T.	審判1: 若林 和人	
		-	審判2: 大島 明	

戦評

白:秀明は、昨年3位、群雄割拠の関東予選を1位通過してきた。春季J0ベスト13に選ばれた3年生(山田、倉持、戸張、四家)やアジアエイジ代表2年生(菅根)を要するスター軍団。青:山形は、昨日、10対3と城北を圧倒し、進出してきた。こちらも選手の大半がJ0ジュニアでの優勝経験がある。接戦が予想され、勝ち上がったチームが優勝に大きく近づくことは間違いない。

1P 山形工の先攻でスタート。しかしその次のターンでいきなり試合が動く。6:17、秀明 倉持が高い位置ながらバワフルなフロッタープレーからのクイックシュートを決めて先制する。5:53には 四家が速攻から得点し、2-0。5:38、山形工 近野のセンタープレー、マークがついて来られない素早い動きでワックシュートを放つが、秀明 GK山田のファインセーブに阻まれる。J0優秀選手が期待通りの活躍。山形工も反撃、退水オフェンスのチャンスに2年生レフティ 齋藤が鋭く打ち抜き、1点を返す。さらに2:50にも退水オフェンスのチャンス、新山が落ち着いて決めて、同点。緊迫した状況が続く。0:36、秀明 戸張が2次速攻の中でノーマークチャンス、そこへパスが通り得点し、3-2。

2P 開始早々から秀明のラッシュ、激しいプレッシャーをかけハーフラインでボールを奪い取り、2線速攻、6:31 荒井が得点。離されまいと山形工、退水オフェンスのチャンスに目にもとまらぬバスクから 羽角が得点、激しい点の取り合いになる。5:15、相手のバスマスに乗り、秀明の速攻、佐藤が得点。4:54、山形工 近野のフロッタープレー、ボールを素早く左右に持ち替えながらフックシュートで得点。4:32は秀明、センターポジションを警戒しマークが下がったところを上から 四家がミドルシュートで山形工ゴールを打ち抜く。3:45、山形工 羽角がマークを背負ったままドリブルイン、さらにキーパーをかわし得点。2:49、秀明 四家が速攻から得点。それぞれに個人技が光るシーソーゲームの展開で7-5。1:36、秀明のミドルシュートを山形工GKが防ぐが、ボールはゴール前にいた秀明 四家の前に落ち、これを押し込んだ。8-5秀明のリードだが、3点差では安心できない激しい展開。

3P 先制は山形工、近野がカットインから得点。5:12、秀明 荒井が速攻に生じた数的優位からGKの間をついたシュートで得点。4:50、ペナルティシュートのこぼれ球を山形工 羽角が押し込む。4:25、秀明 四家の鋭いミドルシュート、取られては取り返す見応えのあるゲーム展開。その後は、山形工の下がり気味ディフェンスに対して秀明はミドルシュートで応戦、そこに山形工の速攻、しかし秀明 GK山田のファインセーブという展開で膠着状態が続く。しかし、山形工が繰り出す速攻に秀明は退水トラブルを連発する。この機をとらえた山形工は残り2分を切ったところから猛攻で巻き返す。1:40、0:57と退水オフェンスから 新山、齋藤がそれぞれ得点し、1点差。0:25には 羽角が速攻から退水を誘発させながら得点し、10-10の同点で、第4ピリオドを迎えることとなった。どの選手からも目が離せない。

4P センターボールには両選手が同着、奪い合いを制したのは山形工、そしてそのまま 羽角が持ち込みドリブルシュートで得点。この逆転弾が山形工には勢いを、秀明には焦りを生んだ。6:20山形工の攻撃、センターポジションを警戒しマークが下がったところをゴール正面5mから 林が技ありルーフシュートで得点。5:29 秀明は1年生 一木が2次速攻からマークの隙をつき得点するが、焦る秀明のバスマスに乗り速攻を仕掛ける山形工、近野が4:05に得点、山形工2点リードを保つ。たまたま秀明ベンチはタイムアウト、オフェンスでの早打ちが目立った選手たちに落ち着きは戻るのが。2:18秀明 四家がフロッタープレー、技ありのボールキーパーから意表をつくフックシュートで得点し、1点差。しかし、0:41、山形工 近野のプレー、自分で打ったシュートのこぼれ球を取りに行き、ダメ押しの得点を決めた。力と力のぶつかりあい、技と技の見せ合い、素晴らしい個人技とその連携、これぞ水球という素晴らしい瞬間。

記録者

志水 啓介